



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1931, 16(3): 230-237

ISSUE DATE:

1931-09-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183942>

RIGHT:

雜 報

となるべきことは紹介子の信じて疑はない所である。(松下)

○印度人の國産綿布使用 一九三一年三月三十日第四

十五回コンGRES黨大會は外國綿布につき平和的監視を認めたアーウィン、ガンデー間のデリー協定なるものを認めた際會長バテルは曰く、

インド大衆の生活を脅かす外國綿布の競争を防止すべき外、排斥は我等の權利であり義務である。

農業の閑散期に起る失業状態を救ふの道はチャルカ(手紡車)の使用とカディ(手製布)着用の奨励を必要とする(註に曰く印度のガンディは英國品非買といふボイコットをモットウにして實行し、特に綿布に關しては其着用を禁じ、手製布を頭にまきつけることを首唱した、彼は機械文明に對して、手工業を以て之に當ることを實行して、而かも着々としてそれが成功をしたのである、機械といふものゝ生産が必しも家内工業を壓迫し得ない實例が印度に於て發生したのである)之我々の外國布を排斥せんとする所以であつて、インド紡績業者は、差當り必要な種類の綿布を供給すべきもカダール(手製綿布)の利益を害することを許されない、外國綿布の取扱者は今やボイコットは恒久の運動である、單に政治上の武器として用ひらるゝものに非ずして、大衆の福祉にとりて恒

久の價值を有する經濟上社會上の手段であると認めるコンGRES黨の態度を牢記するを要する、英國や日本及他の外國商人は此點につき誤解する所なくインドに於ける外國布の販賣を中止し、市場を他に求めるべきである、監視は非攻撃的である、強制や脅迫や妨害はしないけれども、其實行は啓蒙的で婦人が之を行ふやうに平和にやつてゆく、本來英國綿布の排斥はコンGRES黨の發生と同じく其發生は古い、一朝一夕ではない、而して前年ガンデーが之を其政治的政綱にかゝげてから、この運動は單に英國と云はず、廣く外國綿布の排斥運動と化した、而して一は英國に對する政治上の武器とし、一は經濟上社會上の向上手段としたのである、たとへデリー協定が出来ても、右の平和的啓蒙的に婦人をして外國綿布を排斥せしむるのは、國家繁建の大權である、決して其運動を弱はめてはならない。と、いかにも一九三〇年中英國綿布はボイコットをうけて減少したが、一九三一年には英國の對印度輸出總額は二月に三千七百六十四萬磅で、之を前年の同月の六千五十七萬磅に比して殆ど半減し、その内綿布のインド輸出の減退額は五百十六萬磅に上つた、二月の末にデリー協定が出来たから市場はボイコット中止を氣構へて活氣を呈したが、それも一時であつて、とても昔のやうにはならぬらしい、この間にインド國産品は關稅の引上によつて賣價を高めたが、一方日本品は關稅引上げ支け原價を引下げて對印貿易をやつて行くやうにしたが、英國は其生産費を切下げざる眼

リインド市場の回復は餘程困難になつたらしい。一人の國家民族的運動もこゝまで徹底するとつよいものだ、さうした運動はひとり印度に於てのみ起つたのではない、日本の人々もあまりに舶來品を珍重しないやうに努力しなければならぬ、しかし印度のやうに手工業で、器械に競争をしよとまでいふのではないが、器械萬能といふことは、生産上考慮すべきことと考へさせられる。

○浙江の螢石

螢石は弗化カルシウム百分九十以上をふくみエナメル、硝子製造材料、弗化水素の原料になる、百分八十以上を含むものは煉鋼用其他の工業使途があるので浙江の螢石は近頃非常に盛に採掘され、一萬噸内外に達する、其三分二は日本に輸出しその三分一は上海其他で消費する。

産出地は省内山脈全部にわたる、吳興、長興、昌化各縣をはじめ西部では江山、常山、桐廬、金華、義烏、武義、浦江一帶、東部では諸暨、嵊縣、新昌、象山一帶、南部では麗水、永康各縣に産し産地約五十ヶ所に達する、浙江省の鑛區は七十八萬四千五百二十九畝に達し、收稅年九萬二千四百五十元である。特等螢石は上海で一噸百弗、新昌産であるが、その他の産出物は二、三〇弗である、杭州、上海に取扱店が多い。

○スマトラ東海岸の日本人の賣藥

日本人のこの地方の賣藥は小資本で小さいけれども、メダン市に田中藥舖(宮川喜代松)小川藥舖(小川房吉)萬歲商會(大堀武雄)の三軒、ビンヂェイに今井膠喜、ペマタンシャンターに佐久間昇、福

地勝太郎の二戸、チピンチンギに山下源太郎、竹下理一の二戸タンジョンバライに矢倉長治、セアピアビに牧野賢次、セルバラワンに家入正、以上でぎつと十一軒ある、いづれも有力ではないけれども、醫者の少ない蠻地である全島六百五十萬の住民は賣藥を唯一の頼としてゐるのであるから、この賣藥は見込が多い、ジャバにラスカンブといふ資本五百萬盾の賣藥會社があつて、勉強してゐるのに比べて、まだ〴〵商がないけれども、解熱劑、驅蟲劑、鎮咳藥、鎮靜藥、催眠藥、胃腸藥、皮膚病藥、驅蟲劑いづれも需用が多い、土人の病氣は赤痢、腸室扶斯、痘瘡、マラリヤ、結核、寄生虫病等であるマラリヤは段々と少くなつたが結核と性病とは多いやうである、熱帯であるから土人は一日數回水浴する、水道や井戸のない土地では泥河の中に入つて水浴するのであるから、傳染病は中々やまない。最も多いのは結核で死ぬ、つぎは赤痢、にチブスであるが、コレラは少い。

メダンの人口は六萬一千七百人この中白人は四二六〇人、土人二七、九〇九人、中國人二六、五五七人、其他約三千のアジャナのうち日本人は内地人三七八人である、チピンチンギは人口一萬二千、内土人五千六百六十五人、中國人四千八百人、本邦人約七十人を算する、本邦製賣藥は包裝と體裁がわるいので、つい中味まで土人に悪いと考へられるらしいが、しかし少しく醫藥に心得のある人が行つて、活動をしたなら見込が多いと思ふ。

○オランダの海運

一九三〇年中オランダの海運も世界並で不況であつた、けれどもオランダの海運の諸會社は斯業の不況にも拘はらず、益最新式のモーター船を用ひ、舊式の船を賣却して、外國船の強敵である。

極東線に關しては、歐洲と極東との貨物の減少により、同一航路の多數會社らの競争により、オランダの極東線も亦協定から脱退した、それは大連奉天天津及威海衛にも寄港するもので、アントワープと極東との運賃は、受取る金額以上に入港税を支拂はねばならぬといふ程に競争してゐる。

南洋線ではシンガポールは目下世界第七位の海港であるが、其入港数は増加したけれども、取扱ひ貨物は減じた、英國第一位であるが、オランダがこれについて有力であつた。

オーストラリア線では日本及米國の鋭敏な競争があつて、歐洲よりオーストラリアへの輸出に損害を與へた、不定期船による海運はオーストラリア産穀物及散荷の輸送に與ること著しいが、日本船は不定期のもの多くは五千噸船令十年迄で積載力の大きいのが各港間を航行し、航程千哩につき三十圓の割合の補助金をうけてゐるので、オランダ船にとつては強敵である。

英領インド線は、印度の反抗により英本國の海運に甚大な影響を與へた、さうして英國品のかはりに歐洲品が印度に入るやうになつたけれども、不況のためにオランダとドイツの共同の船會社も十分な利益を擧げかねてゐる。

スエズ運河通過のオランダ國船舶及噸數をみると、一九三〇年にはオランダはドイツ船よりも下つた。

日華線に關してはオランダ領東インド及日本、中華民國間に於ける荷物の動きは、不況と銀貨下落のために打撃をうけた。日本も不況のために諸種の工業は其生産能力の五乃至六十%の生産制限をやつてゐる位である、日本の經濟狀態はよくないけれども、海運業に對しては従前よりも補助を増加し不定期船に對し三ヶ年の間、毎年五百萬圓、定期航路に對し一千萬圓内外を支出してゐる。

しかしオランダ本國は近頃大きいモーター船四隻をつくつて、日曜と金曜の外、毎日、午後七時にロッテルダムを出て翌日正午ロンドンにつき、コウエント、ガーデンの野菜市場(夜十二時開場)へ野菜穀物を供給するといふことを始めた。これはオランダとイギリスの協定によるものである。

○米國西南地方の石油

米國メキシコ灣岸のアルカサス、カンサス、ルキデアナ、ニューメキシコ、オクラホマテキサスの六州は所謂ガルフ、サウス、ウエスト地方と呼ばれる、この地方は石油産出のために、近年人口の増加著しく過去十ヶ年間にアルカサス、ルイデヤナ、オクラホマ、テキサスの四州にて一、九三四、六〇六人の人口が増加し石油地方に殺到した、石油のために建設されたオクラホマ州タルサ市の如きものもある、學校の敷地から石油が出るために、テキサス州の如きは州立學校學童一人宛二十二弗以上の収益

がある。州立大學は九、二三二、二一九弗の資本財産が出來たといふ。

一九二九年中全米産出の原油は十億六百萬樽で瓦斯は一萬一千四百五十億立方呎、天然油は十二億三千百萬ガロンに達したが大部分は西南地方の産で、全米の自動車千八百萬臺（四人半一臺の割）のガソリンはすべて西南地方から出た、テキサスとオクラホマが特に産出が多い、この兩州の産出は前記六州の合計の約八十六%、カンサスは六%六八、ルイヂャナは三%一五、ニューメキシコは一%にすぎない。

井戸の數は一萬三千六百七十七、このうち七千は石油を出し、一千三百は瓦斯をだすが、五千四百井は枯れたのですてられた。

油田がなくなつても、オイルセール、又は石炭の水素化によつて、この地方は永く原動燃料の産出地たるの見込がある。

○植物性油脂の用途と產地

一、椰子油、コブラ 主として石鹼、人造バター、豚脂代用品、菓子製造、コスメチック、香油の製造に用ひ、椰子の乾肉コブラからとる、含油量最大六〇%、産地は蘭領東印度フィリッピン、南洋諸島、セイロン、印度マラバー海岸、マレイ半島等で逐年増産し、只今では供給過剰である。

二、棉實油 食料品で全消費量の七五%は混成豚脂の製造、人造バターにも用ひる、アメリカと印度、埃及、伯國、ペル、アルゼンチン、濠洲に産す、需給共に戰前よりも減少し

た。

三、落花生油 食用で、佛國ではオリブ以上、米國ではオリブ油に混ぜる、人造バターにする、英領印度、中華民國、佛領アフリカ、英領アフリカ、この中で印度第一、支那が世界第二の生産地である。

四、大豆油 石鹼製造、ペイント、ニス、リノリウム、印刷用インク、及食料に供す、北滿洲で三百萬噸、日本と朝鮮から各六十萬噸、東洋獨特の生産品である、歐米では主として大豆を家畜飼料にするので世界の需要は約四倍以上になつたが供給力は二倍した。

五、亞麻種油 ペイント、假漆工業、リノリウムに用ひ、石鹼と食料との方には僅少である、歐洲諸國でつくるのは油が目的でない、油の方はアルゼンチン、印度支那、及ロシアである、アルゼンチンは一億二千萬封度を輸出する、印度も大きい、主として英米二國で消費する。

六、オリヴ油 食用、石鹼用、蠟燭詰用、絹紡用に用ひる日本でもトルコから買入れる、スペイン、イタリー、ギリシヤ、ポルトガル、北アフリカが主産地である。

七、菜種油 中華民國で燈用及食料にする、日本は中華の種油を輸入して食用とする、印度産は歐米で食用又は工業に用ひ、その中二〇%は日本に仕向けられる、日本の種油消費は大きい。一年に八千四百萬封度を需要する、支那と印度からくる。

八、蓖麻子油 醫用にする外封臘に用ひ、ローソクに用ひ、飛行機の滑擦用として用途が多い、蓖麻は元來蒙古の原産であるが、只今では印度、中華民國、伯國、印度支那から出る印度とブラジルが主要輸出國である、日本は一千三百萬封度を消費する。

九、桐油 傘の紙に用ひたのが最初で、最近には塗料として亞麻類油を凌駕し防腐防濕の効著しく船舶、家屋に用ひ、油紙油布、雨衣、雨傘、油繪具、ペンキ原料をはじめ、桐油灰や油墨をつくる、中華民國の特産で湖南、四川、廣東等に産し(山地)百四十萬擔三千二百萬兩を産する。

一〇、胡麻油 サラダ用にオリブの代用バタの原料石鹼の原料となる、東洋では食料である、印度、中華民國、ビルマメキシコ、ブラジルに産し、印度と支那が主産地である。伊佛、和及日本がその消費國である。

一一、向日葵油 人造バタの原料、石鹼の原料、で露國が第一、アルゼンチン第二、この植物は地味を選ばぬ、旱魃に強いからロシヤ南部につくられて第一位の産油國となつたが、無理な輸出をしてゐるやうである。

○パラグワイ國の事情

首府アスンシオンは一五三五年で、ペルーにリマ市が建設されたのと大差がない、スペイン人の南米開發は豊富な銀をうるためであつたが、銀はポリグアイヤにあつた(ポトシ銀山等)そこへゆくには最初パナマにつき、地峽をこえて海路南米西

岸に達し、それからアンデスの峻峰を越えたのであつた、日數は多く費用もかかる、途中カリビヤン海で海賊も多かつたから、やがてスペイン人はラプラタ川即銀の川といふ方面に來て、それを溯航して、パラナ川からパラグワイ河を上つて陸路ポトシに行くやうになつたので、この國が建設された。

一八一一年にスペインから獨立し一八七〇年迄獨裁的大統領が三代つゞいて、四代目に有名なローピス(Lopez)が大統領になつて一八六五年以後ブラジル、アルゼンチン、ウルグエイ三國の軍隊と五ヶ年間戦争をつゞけ五十萬の生靈を失つた、かくて戦争前の人口百三十萬が一八七〇年には人口二十萬に激減し、男は二萬八千七百八十八人しかゐなかつたといふ。かくて廣い土地は狭くなり、現在人口八十五萬、首府は八萬七千八百人の都會になつてゐるに過ぎない、銳意恢復をはかつてゐるので、歐洲の移民と投資とを歡迎し、本邦人をも盛に歡迎してゐる。

地理上之を三分すると東方森林市、パラグワイ河東岸の平地及パラグワイ河西岸のチャコ平原であるがこのチャコの平地はポリグアイヤと係争中である、三地理區の状況左の如し。

チャコ

パラグワイ東岸

大森林

海拔 八〇—一八〇米 七〇—三〇〇米 一〇〇—一五〇(米)

雨量 一、一三米 一、六米 二、〇米

溫度 華七三度 七二度 七二度

地質 第三紀層、粘土 第二、三紀珪岩 第三紀玄武岩

土壌 粘土と砂 砂、腐蝕土 粘土
樹木 ケブラチヨ 杉、マテ、シユロ マテ茶、シユロ
地形 平坦 波狀 波狀、山地

この表の如く、チャコの平坦地は雨量も少く温度も高いので、牧畜地であるが規模が小さい、森林からケブラチヨを伐採する位である、森林地は殆ど未開であるから、パラグワイ東岸平地に人口が集中し農牧を業とする國の半分以上は溫帯であるから人が住みよい。

人種は印何人と西班牙との雜種及印何と白人であつて、雜種が多く、ガラニ族は少い。

工業は肉の罐詰、ケブラチヨの精製、製油等土産に加工するもの、國內の需要に應ずる精糖、精米、葡萄酒、ビール、製粉、石鹼、香油、落花生油、葉卷、卷烟草、靴及皮革、家具の製造であつて、この國の天産の様子がわかる。

パラグワイの水運は下は海に達し、年内三ヶ月間高潮の時はラプラタ河口からブラジルのコロンバ迄一千噸の汽船が通ずる、首府アスンシヨンに一ヶ年入港の船舶は約二千七百隻、英人の經營が多い、これは南米の河川に共通の現象である、コロンバといふのはブラジルマツトグロツソの沼澤地にある市邑であつて南緯二十一度附近、南米大陸の中心に位する、以つてこの川の交通上の位置をしることが出来る、小蒸汽ならは更らに上流に溯つて、どうかすればアマゾンへの聯絡がとれるのである。

○南極洋の捕鯨業

鯨油は石鹼及マルガリン(人造バター)の原料として需要が多い、しかし過去にはその生産が今日の如く盛でなかつたから鯨油を原料として生産業に従事することが不可能であつたが一九二八年以後、その生産が確實になつてこれらの企業家に安心して用ひられるやうになつた。そこで歐洲石鹼マルガリン製造會社はノルウエー捕鯨會社と契約して其捕獲油全部を買ひしめて事業をやりだしたところ、一方捕鯨の方は一大飛躍をつげて一九二九年百八十萬樽を産したものが、一九三〇年に二百八十萬樽、一九三一年には三百四十五萬樽といふ未曾有の收穫が豫想されたので、一九三一—三二年の出漁は休止するといふことである。

捕鯨業は其起源は古いが、最初はビスケーの船人が十二世紀にビスケーでやりだし、ついでオランダ人がスピッツベルゲンに遠征し、英人や、ノルウエー人、丁抹人も北海に活動しだした十七世紀のことである、十八世紀になると遠洋漁業が盛んになつて、北米の方に移動したが、一八六八年ノルウエー人が捕鯨銃を發明してから、殆ど同國人の獨特の事業となつた、日本の北方に於ても十九世紀の前半に英米人の捕鯨の活動があつた、さうした間に北半球の鯨は段々へつてしまつて、思ふ程の收穫がないやうになつた、そこでノルウエー人は南極洋に出動した。

十九世紀の後半にサウス、シエツトランド島を根據にして活動をはじめたが、やがて大なる工船をつくるやうになつて

陸上のステーションが不用になつた、歐洲大戰がすんでから工場船の鋼鐵製が出来たので、ロツス海にのりだすやうになり（一萬二千噸）その船内で作業する能率も増進した。

一九二八年以後二萬二千噸からの工場船が出来て南極洋にゐる無數の鯨をとる時代がきた、主として英國の資本が船をつくり、ノルウェー人は技術を供給する。その結果二百五十萬噸といふ產出ができたのであるが、いつかは南極洋の鯨が又々絶滅するであらうといはれるけれども、南極のは背の抹香鯨やストレートとはちがつて、ブルホーネルといふ種類で形態細長く動作敏捷である、其数は非常に多いものであるから容易には減じない。且又近頃は鯨の大小を撰擇してとるやうになつてゐるから、北方の海に於けるやうなことは當分はない、あまりとりすぎてマルガリン會社が困るから、一二年休むといふやうな話であるから、これからは南極氷壁附近の捕鯨業は、永く續くものとみてよいであらう。

ユーゴスラヴィヤのアルミニウム原礦

アルミニウム原礦はユーゴスラヴィヤでは銅礦と共に二大重要礦産である、原礦ボーキシッドは同國山岳地方至る所にあるが、量と質とに勝れたるはアドリヤチック海の一部諸島、及同海に接近せる沿岸地方一帶にあるが目下探掘するはKin及 Benkovatz 二郡に存しTinej 鐵山は最大の鐵坑であつて、同國年産額の約八割を出す、すべて國外に輸出されるので、米國、オランダ、ドイツ、ノルウェーに仕向ける

就中アルミニウムを多量に產出する米國は原礦の不足を感じタルマチャ、ヘルツェゴヴィナの鯨脈にも着眼してゐる、残念ながらユーゴスラヴィヤには完全なアルミニウム工場がない、モスデ工場から半製品を輸出するに止まる、故に原礦は輸出するがアルミニウムは輸入しなければならぬといふ皮肉の感がふかい。

ブルガリヤの薔薇油

ブルガリヤ産の薔薇油は淡黄色の油液にして平温にては半結晶す、世界産額の約八割は同國の產出にして、諸種香料の原料となる、其中心産地はスレドナゴラ山脈南斜面に限られ俗に薔薇谷の名あり、就中Blagoviv市の北方Basilia及東方のカルロヴオ市附近の谷間を中心とし此地方には最新式の蒸溜工場あり、その栽培及バラ油の抽出は農家の副業にして全國に四萬二千畝の畑あり、所有者一萬二千を數ふ。花の種類は七千餘種もあれど、其油の抽出に適當なるは種類極めて少く、ブルガリヤに於て栽培せらるゝものは大體赤か白、七種に限られ、白は赤よりも粘分少く品質やゝ劣れども、開花の分量多く病害に對する抵抗力が強い。平均薔薇花三百萬個のうちより油は僅に一キロ瓦を出すに過ぎず、その面積一ヘクタールを要す。

氣候暖く砂地、石灰質にして灌溉に適し北風に當らざる土地に行はれ、五月二十日乃至二十五日の間早朝九時前開花新鮮なる時に採取せざるべからず。さうして採取後二十四時間

以内に蒸溜を必要とするから、一時に人の手を必要とする、但し右の一キロ瓦は邦貨千五百圓内外の相場なるが、それではとても生産費を補ふに足らず、この相場は一九三〇年夏以後二期乃至二期五分の下落によるもので、目下仕向地の銀行倉庫にストックとなり居るものが多いから、目先き相場は高くならぬといふことである。

質疑應答

問。蘭領モザンビーク

答。アフリカ東岸のモザンビークは熱帯東岸に位し平地が多いから、將來の開墾が豫想される、現に農産物は一九二八年度に一千八百五十萬圓近くを輸出した、砂糖、玉蜀黍、コブラ、サイザル、棉花、烟草、胡椒、マンゲル樹皮、レモン夏蜜柑、メロン類であつた、沿岸に水産も多く、捕鯨業も盛である、猶又鐵物資源も多く、金、銅、鉛、錫、石炭がある、歴史家の報告によれば、紀元前一千五百年頃既にフェニヤ人によつて貴金屬の探掘が行はれ十六世紀には土人の手で金銀が採掘されてゐた、原始生活の域を脱しない土人の中に家具、裝飾器、武器、鐵器をつくる技術がある、殊に金絲細工は有名でポルトガル人渡來以前からやつてゐた、従つてこの土人は未開ではない、教育によつてその家内工業は進歩する見込が多い。交通上サンペデ川が唯一の幹線で定期汽船が

通つてゐる。リンボボ川も小汽船が通る、この川に灌漑工事が實現したら非常に發展するであらう。

鐵道も亦各海港から内陸に通じ經濟的發展に資してゐる、日本との貿易は最近に始まつたけれども年々増進の勢をしめし有望である、一九二九年には日本から輸出額前年の二〇二、七五二エスクードから三二九、二七七エスクードに増加し、木綿類、絹物、人絹、襪、米、竹細工、陶磁器、金屬製品、鈕、玩具、服物、筵類等であるが、同地よりの輸入は鐵物類一四〇エスクードに過ぎない。アフリカの各地と日本商品との關連は近頃段々と密接になつてきた、我等はアフリカを遠い無關係の國と考へてはならぬのである。

問。アフリカ、ニジェリヤ事情

答。英領地の中では屈指の大國である、其面積はカメルーン委任統治地を合せて三十七萬三千平方哩を越え、人口は凡そ千九百萬、アフリカ第一である、其東と西と北とは佛領西部アフリカである、南はギニー海に面し、雨量が多い、北部に上るにつれて減退し遂にサハラとなる。

之を行政上二十四州に分れ、各州にレジデントがある、ニジェリヤ總督はラゴスに居る、其英國の政治は間接統治で土人の中に文化の高いものがある、回教徒のエミールといふものが萬般の政治をやつてゐるのである。

熱帯森林地であつて、太陽の光線の強烈なこと、赤外線豊富なこととは他に類がない、海岸は多雨で五月から九月まで